



長崎県では、用水の確保や台風被害回避、作期分散を目的として、水稻の早期栽培が行われています。2016年に本県の奨励品種に採用された高温耐性品種「なつほのか」は、6月に移植する普通期栽培で高品質・多収性が確認されていますが、4月に移植する早期栽培での特性は明らかになっていません。そこで、本品種の早期栽培での育苗特性および栽培特性について検討しました。

水稻「なつほのか」早期栽培における特性

高収量期待の有望品種

品種名	生育・収量と倒伏程度						
	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	精玄米重 (kg/a)	倒伏程度 (0~5)
なつほのか	7/13	8/14	70.9	89.2	23.3	62.6	0.9
コシヒカリ	7/2	8/4	79.8	80.0	22.2	56.2	2.5

注)データは2017、18年の平均値、倒伏程度は0(無)~5(甚)の6段階評価

向はみられたものの、苗の硬化開始時期を1日早めることで徒長を抑制でき、比較に用いた「コシヒカリ」と同等の健苗育成が可能でした。また、出穂期と成熟期はいずれも「コシヒカリ

リ」より約10日遅く、稈長(かんちょう)が短いため倒伏しにくい特性を示しました。さらに、「なつほのか」は登熟歩合が高く、粒が大きいことから収量性に優れ、収量は「コシヒカリ」を約10%上回りました。

早期栽培においては、出穂後の高温による品質低下が懸念されるため、穂肥を出穂20日前と10日前の2回に分けて施用することで、品質の安定化が期待されます。

以上のことから、「なつほのか」は早期栽培においても高収量が期待できる有望品種であり、適切な育苗管理と施肥体系によって、特性を十分に発揮できるとが明らかとなりました。

(長崎県農林技術開発センター農産園芸研究部門作物研究室研究員 大保寿美華)